

令和4年度 玉名女子高等学校 学校関係者評価報告

学校関係者評価委員会

実施日 令和5年2月28日(火)

出席者 法人評議員と保護者代表PTA役員

- 令和4年度参観行事：新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度の参観はなし。
体育祭・文化祭は保護者にのみ公開
- 自己評価の分析について 資料の配布と説明(教頭)
- 感想・意見や提案(評価者)

1 「学校評価アンケートについて」

「学校評価について」

学校の取り組み姿勢、現状の課題と学校の様子がとても把握できた。重点目標にそって努力され、全ての項目についておおむね妥当な評価がなされているように思う。

多くの生徒がこの学校に入学し、学習面および生活面においておおむね満足し、保護者も学校の姿勢に満足している様子。一応安心できる結果ではないか。

アンケート結果を全職員で共有し、課題解決のために共通実践を継続する。今後の明確な具体策の検討は、もう少し深掘りが必要だと感じる。

アンケートの回答の中の「思わない」、「分からない」には非常に危機感を感じる。この全体の2割の意見集約が、全体の底上げのヒントになると考える。

重点目標(1) 基礎学力の充実のための取り組み 専門性習得のための指導力強化

朝読書やマナトレは、玉名女子高生の学力的課題等を踏まえて実施されるようになったものと推察。基礎学力の保障は重要であり、方法が軌道に乗っていないということであれば、今一度、管理職と教員、場合によっては生徒も入れて新たな効果的手法を検討し、やる気をもって取り組むことが必要。読書習慣をつけるため、すべての教職員が、頻繁に生徒とともに図書館を利用し、朝読書を中心に一定時間集中して読書することや、保護者・教職員・生徒がともに参加できる、図書館を利用した読書に関する催しの開催などの取り組みを。読書による様々な効果が実際報告としてあがっている。集中力がアップしたかどうかではなく、別の視点で評価してはどうか。

生徒が理解できる授業を通して、生徒にどのような資質・能力を身に付けさせるのかという視点に立った授業のデザインが求められている。このことに関する研修の充実も大事。

個々の先生方のスキルアップと同時に、生徒一人一人を理解し、全体像を把握した上で必要に応じて個別対応を検討していただきたい。生徒が授業に興味を持てるよう、楽しい(面白い)授業の工夫を。授業の方向性など全教職員が共有し、確認することも大事ではないか。

課題として挙げられている授業の中でのICTの活用は、教員のスキルを高める研修とともに、授業の中での活用の仕方についての研修の充実も必要。ICT機器の活用に堪能な教員による研究授業を

通して、各自が自分の指導技術にどう落とし込むかについての研究を行うことが大事。

専門的な学習内容の充実が資格取得や検定合格につながっている。生徒は達成感や成就感を味わうとともに生徒や保護者の学校評価を高めていると思う。本校の高い検定合格率や資格取得は魅力の1つであるので今後も取り組みを充実させていってほしい。

専門教育の充実が評価されている。地域のOB看護師の方々との連携と情報交換をはかり、看護科学生への看護教育を充実できる環境を整える。また、食物科のさらなる充実を図るため、地域企業とつながる教育機関となる。産学官共同の充実がなされることで指導力等のさらなる充実につながる。

重点目標（2） 基本的生活習慣の確立を図るための取り組み

学校を訪問するたびに見かける気持ちのよい挨拶や丁寧な掃除は学校の伝統であり、良い習慣として生徒に根付いている。日々の指導の積み重ねの結果だと思う。互いの顔がマスクに隠され、意思の疎通が厳しい中さわやかな挨拶が交わされ、日常での教職員と生徒との良き関係が保たれていると思う。反面、令和元年と比較して評価が低下していることを示す資料に、学校の変化を感じた。コロナ禍による行動の制限で意思の伝達が十分にできないことに一因があるかもしれない。

先生方が生徒の悩みや相談に親身に対応していると感じている生徒が57%と低い。生徒との距離感や多岐にわたる悩みの対応と難しいと思う。しっかりと生徒一人一人とコミュニケーションをとって頂きたい。教育相談活動をより充実させて生徒理解を深め、個に応じた生徒指導に生かし、悩みや不安の解消を図るようにする。

以前、ことあるごとに校訓として言われていた、賢明な生徒であれ、賢明な社会人であれ、賢明な母親となれと簡単に言えなくなったか。

重点目標（3） 文武両道（教師によるマネジメント）

部活動に参加している生徒は、実力をつけ、忙しい中にも活躍している。部活生への配慮や学習や生活指導など考慮し、3年間を充実したものにすると、大きな財産になると思う。

コロナ禍の中にも、活発に活動がなされ実績を上げている。文武両道、間違いなく生徒の皆さんが活躍していた。現在、成果も出ているのでさらに充実していく。

卒業時の進路の達成に向けて個人票などを活用し、入学から卒業までの進路指導を計画的・継続的に進め、生徒に学校生活の目標を持たせてほしい。

重点目標（4） 人権・同和教育の推進

他者に対するいたわりや共感が以前より育っていないと感じる。負の条件を多く抱えた生徒が多くなっていることもアンケートに出ている。より深い生徒理解や愛情が必要であるが、不足していると感じる場面が増していると思う。日々の育成や気づきでお互いを注意しあい、改善していく方向をとってほしい。そのためには開かれた公平さが必要となる。学校で起こったこと、やっていることを全職員がわがことととらえるようになると各人が自分のやるべきことが分かってくると思う。

重点目標（5）働き方改革の推進

I C T環境のさらなる拡充がなされているが、これらを働き方の改革に取り入れ、業務の見直しをし、校務分掌での仕事のスリム化を図り、働き方改革をしていく必要がある。

外部からの講師による研修を定期的に行い、また、他の私立高校などの働き方などについて積極的に情報交換を行い、春休み、夏休み、冬休みなどの活用がなされることが大切である。

2 「入試分析」について

受験者数が年々減少しているのは、少子化による子供数の減少と連動しているものと思われるので、その現実をはっきりと認識したうえで受験希望者増の方策を考える必要がある。少子化は学校だけで解決できる問題ではないので、県や国とも協力して対処していかねばならないと思う。

看護科の減少は少し残念。大変な仕事である介護職、看護職等への希望者が減少しているという現実。荒玉、菊鹿など地元の減少も心配。熊本市内への進学志向の生徒が増えている。

「菊池地域の受験者数」が R2 年→R5 年と漸増しているが、その理由が判れば今後の参考になるかもしれない。

3 魅力ある学校づくりと生徒募集

学校建学以来守り継がれた校風や伝統の数々は他校で失われつつある価値あるものがたくさんある。この事は、特色ある私学の強みでもあるので、そこを生かしながら学校づくりをしていく。

受験者減の要因が P R 不足という部分に関しては、玉名女子高の強みを訴求力の高いものに仕上げ、他校との差別化を図り、受験者呼び込みに向けてアピールしていく必要がある。取組の例としてあがっている情報発信ツールの拡大に是非取り組んでほしい。学校生活の様子など教育活動に関する情報をより積極的に発信し、中学生や保護者、地域の理解を深める工夫を続けていく。

高校時代に色々なことに触れる機会を与えることは大切。読書タイム、検定受験や国際交流など熱中して取り組む機会を与えることは、生徒の人格形成に大いに役立つ。

若者の興味のある分野を取り入れ、時代とともに変化する必要もある。

魅力あふれる学校であるとの認知度が高まるには、外部から魅力づくりに取り組んでいるということが見えるということも重要。教職員、生徒・保護者、そして地域を巻き込んでどのような学校を創っていくか検討会を設置し、それをホームページ等に掲載する。

産業教育に長い伝統のある女子校をアピールし、荒玉地区を中心に地元の企業などと連携する事業を推進する。地域、学校、企業、大学等との連携、協働による取り組み（プロジェクト）を。

部活動として、食物科を中心に、地元の空き店舗などでの Café の運営を行う。高齢者施設などに、出張一日 Café を開催するなど、玉名女子校の産業教育の特徴を知らせる

ボランティア活動、SDG s の実践、社会問題に取り組むなど、現代社会に即応する玉名女子校をアピールする。学校教育、部活動、保護者の方々との活動など、眼に見える形にして、継続する。